

■都市課題

- ・長期化する災害対応（行政の人手不足）
- ・災害時の早期正確なインフラ点検や救助活動
- ・観光客や観光客を迎える住民へ災害発生前後における最適な情報発信

■解決方策

- ・安心安全な遠隔操作によるドローン航行での点検や救助活動
- ・平時は観光/アクティビティ情報、緊急時に災害情報(ドローン測量による3次元地図を活用した道路異常)の提供

■KPI

- ・遠隔ドローン運航での現地作業員の削減（現地6名→遠隔2名現地2名）
- ・安全なドローン離発着拠点マニュアル化（R5末まで）
- ・道路異常アラームのAPI連携での必要な条件整理（R5末まで）

■実証実験の概要・目的

- ①：遠隔ドローン航行を遠隔2名現地2名の体制で実施し、災害時の現地作業員数を効率化する手順・運用の整理
- ②：遠隔ドローン航行の離発着地点における遠隔と現地での安全性向上施策の検討、及び連続航行に向けた課題の整理
- ③：ドローンによるレーザー測量結果を防災観光ポータルへデータ連携する業務フローを整理し情報周知の有効性を検証

■実証実験の内容

内容①：すさみ町のドローン航行を想定被災エリア外から離陸、平時音声伝達航行、上空での航行ルート切替、有事音声伝達航行、着陸の全てを実施。

内容②：遠隔操作ドローンの48回離発着/航行時間15時間実績から離発着場所での現地での安全性向上施策と連続航行における課題整理を実施。



内容③：測量ドローンで検知した模擬交通事故の3次元画像データを、データ連携基盤を用いて防災観光ポータルへ連携し情報公開業務を整理。自治体・住民インタビューから有効性を検証。

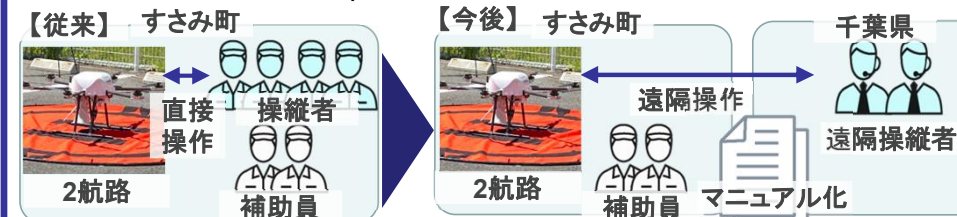


■実証実験で得られた成果・知見

【成果と知見】

①現地ドローン操縦者要員無しでの実施体制（現状：2航路運用高スキル者4名相当、今後：0名）を確立

②遠隔と現地の情報共有/役割分担を明確にした運用マニュアル整備



③ドローン測量とポータルサイト情報公開で、災害時に自治体職員での危険を伴う現地確認作業軽減、移動時間/問い合わせ対応時間を効率化(効果:17H相当)



■今後の予定

R6取組:防災ドローンにおけるレベル4認証機体と現地無人での離発着実現における実証実験の推進。LTE無電波区間でのドローン航行の確立。道の駅すさみでの防災ドローン実装。データ連携基盤や防災観光ポータルの商用開発。

R7取組：防災ドローンの商用サービス開始と運用開始。